

カラ―■永平寺

巻頭言

●なぜ留学僧育英会をつくったか

特集 ● 大本山永平寺と道元禪師

●永平寺の折々

●腕時計を所持しない永平寺の雲水

特別寄稿 ● 「急がば廻れ」の心意気を

カラ―■韓国へ答礼の旅

特別読物 ● 韓国 通度寺拝登

●祝 曹溪宗第九代宗正老天下猊下

●心に残る名句

カラ―■大田山光真寺 成寿山善光寺 開山棟庵白純大和尚十七回忌法要 第十一回育英生辞令交付

●開山棟庵白純大和尚十七回忌法要厳修 留学僧育英会第十一回辞令交付式

●棟庵白純大和尚と光真寺

●わが先師のガードマン白純大和尚

●僧宝の性格を顕示された祖翁

●「世界に仏法光明を」――留学僧育英会の総会開く――

お便り ● 「権大教師補任」おめでとうございます

特別読物 ● 砂漠と草原のモンゴル共和国の旅

カラ―■伊藤三喜庵の世界

声 善光寺ニコース読者のたより 留学生からのたより ご寄付御礼

黒田 武志

池田 好雄

小倉 玄照

古田 紹欽

東 隆眞

佐藤 俊明

大道 晃仙

グラスマン 徹玄

伊藤 博

伊藤三喜庵

永平寺 田村 仁

光真寺 五十嵐千彦

10 14 22 24 33 38 41 45 61 64 73 81 86 92 94 97 105 112 125 129

巻 頭 言

まず、はじめに阪神大震災の被災地の方々には心よりお見舞いを申し上げます、謹んで亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げます。この上は、くれぐれも健康にご留意され、一日も早く復興されます事を、心からお祈り申し上げます。

さて、当善光寺では今春御開山榎庵白純大和尚様の十七回忌に当りましたので、大本山永平寺監院南澤道人老師をお迎え致し、去る二月十日に法要を厳修いたしました。又、平成七年度第十一回の育英生の辞令の交付式をとり行いました。新たに五名の方々を採用いたしましたので、第一回から第十一回までに採用された育英生は六十一名になり、関係国も十六ヶ国に一地域となりました。又論文集第一巻を秋までに出版の予定で、編集の作業を進めております。

これひとえに関係各位、又檀信徒の皆様方の暖い御支援の賜物で、厚く御礼を申し上げます、同時に今後共、育英会の事業推進にお力添えをお願い申し上げます。

御開山十七回忌法要後、南澤監院は「仏法は国籍も人種の違いも超えた、全世界に普遍的なものであり、その法縁により今日を生かさせていただいている。この喜びは何事にも換え難い。御縁をいただいたからには、我々自身がよりよい法縁をつくることが仏道を歩む者の務めと思う」と挨拶をされました。

中国の如浄禅師様（道元禅師様のお師匠様）の師匠様の雪竇禅師は、「道の日に損なわるるが為に」と次のように申されて、厳しくみずからの脚下を照顧して、

三分光陰二早過 三分の光陰一は早く過ぎ

靈台一点不楷磨 靈台一点楷磨せず

貪生遂日区区走 生を貪り日を遂い区区として走り

喚不回頭争奈何 喚べども頭を回さざるは争奈何せん

人生の三分の二が過ぎてみて、振り返ると何一つほこるべきものがなく過ぎ去って行つた。ただ生をむさぼり、人生をいいかげんに過ごして来た。これでもいいのだろうかと反省して、精進努力の日々を送られたのであります。

仏教の教えの尊さに目ざめ、仏弟子としての自覚をし、仏法興隆、世界平和、そして人類の福祉に貢献すべく、皆様と共に歩いていきたいと念じてあります。